DEBUT 首長

熊本県宇城市長　守田　憲史氏

交通要衝の利点さらに追求 職員のプロ化、未来決める

もりた・けんし　1959年熊本県小川町（現宇城市）生まれ。83年中央大法卒、司法書士や老人ホーム理事長などをしながら2003年に熊本県議初当選、３期10年務める。13年２月の市長選で現職を破り初当選。54歳。

宇城市　熊本市の南に位置し、有明海につき出した宇土半島の南側から内陸部まで広がる。2005年に近隣５町の合併で発足。人口約６万2000人。

――どんなまちづくりをめざすのか。

宇城市の持つ拠点性をもっと生かしていきたい。地理的には熊本市の南で熊本県の中心、そして九州の中心に位置する。JR鹿児島本線で熊本駅から松橋駅までは15分、九州自動車道も松橋インターチェンジ（IC）があり宮崎県延岡市に至る国道218号線も通る交通の要衝だ。

熊本市だけでなく県内各地への通勤が可能で、市中心部の旧松橋町の人口は増えている。高校は熊本市と同じブロックだし支援学校も３校立地、医療機関も充実していて生活環境は恵まれている。熊本市はこれまで東へと発展してきたが、宇城市のポテンシャルの高さをもっと宣伝して定住人口を増やしたい。

――拠点性をいかす施策は。

天草への玄関口に当たる宇城市三角と九州自動車道の松橋ICを結ぶ高規格道路の実現をめざす。天草市と熊本市を結ぶ地域高規格道路「熊本天草幹線道路」は、三角から熊本市北部を通って九州自動車道に接続する計画だ。しかし三角―松橋ルートの方が天草から九州自動車道へはずっと近くなる。天草市や上天草市とも協力して県や国に働き掛けていく。

三角―松橋ルートが実現してJR松橋駅西側にICができれば、建設中の三角ICや九州自動車道の小川ICと合わせて市内に４つのICができ、交通の要所としてのポテンシャルが一層上がる。

――三角西港が「九州・山口の近代化産業遺産群」の一部として世界文化遺産登録を目指している。

熊本県も緊急経済対策として、三角西港や三角港周辺を整備するため約10億円の補正予算を組む方向だ。ぜひ登録を実現して観光客を呼び込めるようにしたい。観光は三角西港だけでなく周辺自治体や天草とも連携して日帰り客に重点を置く。宇城市の物産館の売り上げも伸びているが、熊本市や福岡県から気軽に日帰りで来ることができる距離が強みになる。気軽に温泉や海を楽しんだり物産館で新鮮な買い物をしたりといった日帰り客が増えれば地域活性化につながる。

――県議から首長に転じて違いを感じるか。

執行する側になると日々、懸案事項が上がってくる。当たり前のことをきちんとやっていくことの大切さを改めて感じる。職員と力を合わせて市の組織力を高めていくことが大切だ。農業のブランド化や産業誘致、文化振興など市町村がやるべきことは、キャッチコピーこそ違っても内容はそれほど変わらない。職員がいかにプロフェッショナルとして効率的に作業を進めるかが10年、20年先に違いとなって現れる。職員にどうすれば一番効率的か議論し、提案してもらいたい。

（聞き手は熊本支局長　小玉　祥司）

禁複製・無断転載